



卷頭言

野村, 昌孝

(Citation)

海事博物館研究年報, 51:0-0

(Issue Date)

2024-03-31

(Resource Type)

other

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100490219>



巻 頭 言

海事博物館 館長 野 村 昌 孝

今年度、国内の博物館関連で話題になったのが国立科学博物館の運営にかかる費用についてのクラウドファンディングである。開始から9時間で目標金額の1億円を達成しニュースにもなりました。最終的に5万6千人を超える支援者から総額9億2千万円近くが集まったようです。事前の周到的準備と周知、SNSの普及などもあり、多くの人の関心と呼び支援につながったのでしょう。調べてみると、東北大学植物標本庫、国立環境研究所などもクラウドファンディングでの支援の動きがあり、どこも活動継続に苦勞している現状が伝わってきます。文化庁のWebサイトを確認すると令和3年度の報告で5,711の博物館があるそうです。同じページに「日本の博物館の典型的な姿」がまとめられているのを確認できますが、多くが少人数職員による小規模な施設となっています。本海事博物館も同様な小規模施設で、資料の増加、施設の老朽化、常勤職員の不在、開館日数などの問題をかかえながらも開館業務をこなし、このような年報を継続して発行できる体制を維持し続けることができています。学部の支援や専門員の方々の働きに尽きますが、今後のあり方を考える時期に来ているようです。

当館におけるニュースとしては、専門員の菊地先生の報告にもある漏水事故でしょうか。スタッフと学生達の迅速な対応により被害を最小限にとどめることができ、その後の復旧も思ったより早く実施できました。日頃から博物館運営に関わってくださっている皆様のおかげと感謝しかありません。思いもよらないことが起きたりしますが、小規模施設であることに甘えることなく、今後の博物館のあり方も考えながら、海に興味をもつ小学生から一般の方々にとって魅力があり、また、訪問しやすく連携の深まる活動展開ができるよう精励していきます。

海事博物館顧問、専門員、特別専門員、日本船舶海洋工学会関西支部の造船資料保存グループのみなさまには当館の運営に多大なる尽力を賜っております。関係のみなさまのご支援の下、当館は運営することができております。今後も海事関連資料の整理と充実を図りながら、より身近な海事博物館になるよう努めてまいります。今後も当館の運営にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



企画展2024開幕



学位記授与式での花毛布飾り